

3 月期相場概況

3 月期の日経平均株価は約 541 円上昇した。期中の高値は 3/27 の日中高値 8,843 円、安値は 3/2 の日中安値 7,088 円。

3 月期の日経平均は、上下に非常に激しい展開となった。上旬は先月の流れを引き継ぐ形で、7500-7000 のボックス圏を推移していた。上値は米株の大幅下落により、引続き重い状態で 7,500 円が壁となり、下値は公的年金のリバランス買いが支える形で 7,000 円を抵抗として膠着相場が続いていた。何度も 7,000 円割れを伺うが、7,000 円割れは達成されることはなかった。3/11 米シティの今期不良債権処理損を考慮せず黒字との社内メールの報道をきっかけに、米金融株の大幅な買い戻しを誘い NY 市場は大幅反発、翌日の日経平均も反発した。しかし翌日は再び売られる形となった。流れが急速に変わったのが 3/13 の SQ 日からで、前日の NY 市場が今年最高の上昇率を見せたことで、日経平均は大幅反発、7,500 円の節目を突破し、その日の夕場には一時サーキット・ブレイカーが発動するほどの上昇を見せ、500 円以上の大幅反発となった。翌週も NY 市場の上昇などを受け、日経平均は大幅続伸、8,000 円の大台を一時回復した。第 4 週の日経平均も引き続き強く、各指標が過熱感を示す中、ほとんど押し目をつけられない状態で、3/27 金曜日には一時 8,843 円をつけ、今月安値からの上昇率は 24.7% に到達した。この上昇率は 1 ヶ月の間で見ると、過去 3 番目の水準であり、非常に強い反発局面であった。その後の展開も激しいもので、翌週 3/30 月曜日は場中に出た GM 破産申請かという報道により、日経平均は大幅下落 8,236 円まで安値引けの形で下落し、前日高値からの下落幅は 600 円以上となった。翌日今期最終日も下落し、一時 8,100 円割れもあったが、終値は 8,104 円で今期を終えた。

リンカーン・インヴェストメント株式会社